

## 潟の遭難事故 二

文・小西 一三  
絵・小西 由紀子

昔

から多くの恵みを与えてくれた八郎潟ですが、時には突然荒れ狂い、多くの漁師さんたちの命を奪いました。33年前には台風の吹き返しによる遭難事故もありました。羽立の安田安範さん(73)にお聞きしました。

昭和56年8月26日

あの日のことは絶対忘れられねなあ

あ

これは台風15号。8月23日に千葉県に上陸して北上した大型の台風だった。8月26日、台風もやっと通り過ぎて穏やかな天気になったので、潟に船を出した。台風の後には川から流れてきたゴミが建網にからまるから、ゴミを外しに出かけたんだ。あの日は日曜日で勤めに出ていたかあさん(妻)も休みだったから、午前10時過ぎに船外機の船と一緒に乗って出かけた。塩口の船着場からは仲間の船も次々に出港した。

船を出した時は穏やかだったけども、突然、西風が強くなり始めた。すごい風だったな。後で知ったけど、あれは台風の吹き返し。建網は塩口の堤防のきわに建てていたけども、船はもう引き返せね。横からの大波を受けないように船を操るだけで精一杯だった。船は風下の東へ東へと流される。潟の水は強風に押されて行く手の水面が高く盛り上がりて見えただけのもの。

そのまま流されれば、堤防にぶつかってしまうと思ったけど、波と堤防の高さが同じになって堤防がどこにあるのかわからない状況だった。今戸の川に入れば助かるとも思ったけども、川の入り口も見えねえ。船はほとんど流される。突然、目の前に堤防が現れた。このままではぶつかると

思っ、とっさに船を横にした。そしたら堤防からの大きな折り返し波を受けて船は転覆してしまった。

船から投げ出されて、水面上がったら目の前に転覆した船があったので、俺はそれにつかまった。つかまったままかあさんを必死に探したけども、波が高くて見つけれられるもんでねえ。

俺は船につかまっているところを救助されたけども、結局かあさんは助からなかった。あの時、船を横にしねで、真つすぐ堤防に向かって進んでいれば波と一緒に堤防を超えて助かっていたかもしれないと思うこともあるな。いや、堤防にぶつかって、たたきつけられて死んでいたかもしれない。

あの日、潟ではあちこちで船が遭難し12人が亡くなって、その中の9人が羽立と塩口だった。昨日のように覚えているけども、今年は三十三回忌。早いものだ。



先に建つ慰霊碑の背後に、塩口の船着場の先には、亡くなった方々の名前が刻まれている。

慰霊碑の近くで当時の悲しい状況を話してくれた安田安範さん